

天 界

(第 23 卷)

第 2 6 4 號

昭和18年 第6號



本 號 要 目

口 繪: 北海道日蝕の寫眞 (本年二月 5 日).....	木 邊 成 麿 ③
卷頭隨筆: 會員諸氏はもつと勉強せられたし	山 本 一 清 177
日蝕觀測を終つて (1).....	木 邊 成 麿 180
日月蝕の和歌俳句.....	畝 川 哲 郎 184
日蝕時に於ける北極附近の空の明るさ [紀要86].....	木 村 勝 186
プラトンの目覺し時計.....	平 田 寬 192
星座の美について.....	山 本 一 清 193
日常生活と天文學.....	W. F. マイヤ 198
觀測部月報: 流星・彗星・太陽.....	204
別ぐみ頁: 球面天文學要綱 (1)	S. ニウカム (1)
天 界 問 答 (3件).....	190 會員よりのたより..... 208
標準天文用語表 (16)	202 天界正誤表.....197, 205
六月の天象.....	② 會 告・公 告.....179, 201
天界に現れたコペルニク關係記事...	201

1943年

六月の天象

Himmelserscheinungen im Juni, 1943.

太陽は愈々天の最高所に達して、牛座から双子座を運行中、6日には黄經75°となつて、芒種の時節、又、22日には黄經90°、赤緯+23°26'となつて、夏至點を通過する。正に臺灣や南部支那の頭上に輝く時である。従つて、北歐、北亞、アリウシヤン列島あたりでは此の下旬は所謂“白夜”の續く時であるが、其の代り、南極では永く太陽が没したまゝである。“夏至の頃は太陽が光と熱とを直射するから、一年中の最も暑い時節だ”と考へる人が世には多いけれど、之は宇宙現象の幾何學と物理學とをとり違へてゐる人であつて、暑さの極點は七月又は八月である。日本の曆法では、六月12日に梅雨の期に入るが、これは天文學的な期節でなくて、氣象上の季節であるから、必ずしも12日から雨が降るわけではない。

月は3日に新月で、舊五月朔、11日が上弦、18日が満月、25日が下弦である。7日は端午節であるが、この日の夕空に細い弦月が懸つて見えることを忘れてはならぬ。

水星は五月24日に下合し、其後は曉の星となつてゐるが、六月6日には停留し、19日には日心極南黄緯となり、同時に之れが極大離角の日である。離角は20°半に達するから、夜明け前には良く見える筈。

金星は、年初以來、毎日毎夜、太陽から遠ざかりつゝあるが、愈々六月28日には極大離角となり、太陽から東方へ45°も離れるので、日没後の西天に高く輝やく。望遠鏡で見る此の星の姿は恰も上弦の月の如く、立派な半月形であつて、之は日没後よりも、むしろ白晝に望遠鏡によつて觀察した方が宜しい。金星の光度は必ずしも離角に正比例するわけではないから、もつと、もつと、此の星の光は増すものと考へて宜い。

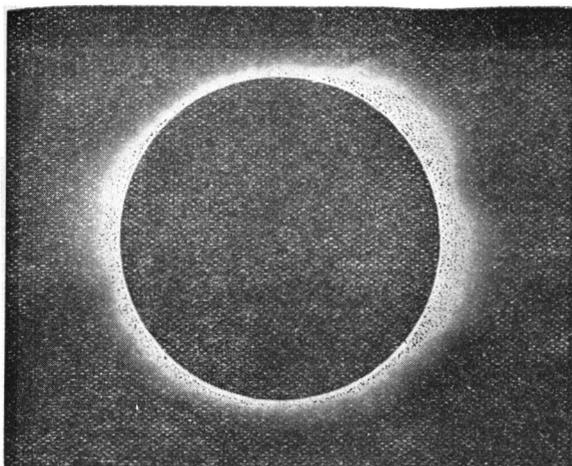
火星は、徐々と地球に近づきつゝある。しかし、凡ては年末の好時期を待つべきであつて、よほど特別な専門家でない限り、視直徑7"内外の火星は未だ観るべき目的物ではない。星座は魚座を目下順行中。

木星は、まだ西の空に見えてゐる。しかし、高度は低いから、日没後の觀察では、大氣の動搖のため、星の像は悪からう。四つのガリレオ衛星も、見えるには見えるが、學的觀測の價値は無からう。但し、七、八兩月は全く視界を去るのだから、名残りに見て置くと言へば其れまでだが。

土星は太陽の光芒の中に埋まつてゐるから、今月も觀察不能。まづ八月頃までは縁の無いものと諦めるが宜い。天王星も土星と同様。今は見るべき時期ではない。海王星は乙女座中の秋分點の北方に於いて停留中であるから、年鑑の中にある詳しい星圖をたよりに、觀察するのは今である。光度は8等強、視直徑は2秒半。

週期的、非週期的の若干の彗星が視野にある。詳細は急報を見らるべし。尙、新彗星の發見も忘れずに行ふべきである。數年前以來、北歐フィンランド國のオテルマ女史の續々成功してゐる新彗星發見に負けてはならない。

六月には、月末に西北の天空から流星群が現はれる。有名なケンネケ彗星の跡を追ふものである。光は弱い、時々は大光輝のものもあるから、見た人は直ぐ小楨流星課長に報告されたし。月の光の妨げも無いから、今年の觀測は有望である。黄道光は、六月中、宵も曉も觀察は困難であらうが臺灣以南では立派に見える筈。内地では夜半の前後黄道帶の觀察を勵まれたし。



北海道日蝕の寫眞

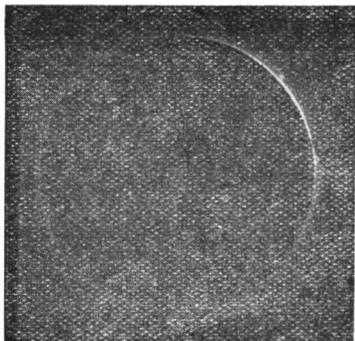
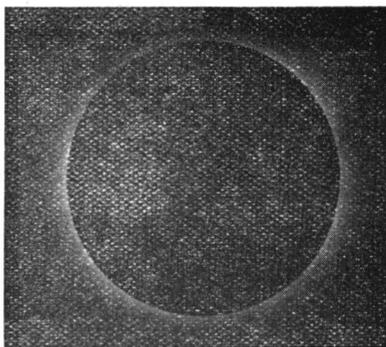
昭和18年二月5日
北海道釧路國厚岸にて
木邊成麿氏撮影

(木邊氏連載記事参照)

皆既第3枚目
5日7時52分20秒
コロナ

皆既第1枚目
5日7時51分50秒
内部コロナと
プロミネンス

皆既第5枚目
5日7時53分10秒
生光數秒前
プロミネンス



Total Eclipse of the Sun.
Feb. 5, 1943.
7^h51^m~53^m, J. C. S. T.
In Hokkaido, Japan.

By Sigemaro Kibe,

東亞天文協會

—大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名—

會長	山本一清	小椋孝二郎
副會長	宮森作造	觀測部長 木邊成麿
理事	宮中森作	經理部長 宇野良雄
專務理事	村覺	理事(無任所) 美田爲三
教育部長	高城武夫	
報導部長	高山本一	

本部所在地	田上天文臺 滋賀縣栗太郡上田上村
事務局所在地	滋賀縣堅田局區内
經營する天文臺	倉敷天文臺 岡山縣倉敷市
大阪支部所在地	大阪市立電氣科學館プラネタリウム (大阪市四ツ橋)
臺灣支部所在地	臺北市公會堂内
黃道光觀測所	廣島縣沼隈郡瀬戸村

東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小椋孝二郎, 幹事 宇野良雄)
2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 倉敷天文臺 本田 實)
6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
7. 機械課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村 木邊成麿)
8. 寫真課 (課長 大津市鹿岡町 堀井政三)
9. 遊星面課 (課長 伊達英太郎, 幹事 佐伯恒夫, 木邊成麿)
 - 火星班 (班長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎)
 - 木星土星班 (班長 大阪市四ツ橋 電氣科學館 佐伯恒夫)
 - 水星金星班 (班長 木邊成麿)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第2條, 第3條, 第6條 (略)
- 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事ガ出來ル。
- 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文速報(舊名ブレテン), 東亞天文協會急報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

天界

第264號

昭和18年5月28日印刷
昭和18年6月1日發行

〔定價(税)金40錢〕合計金43錢
特別行爲稅相當額3錢 送料金1錢

編輯兼發行所 滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513

印刷所 京都市上京區上栴木町千本東入

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

東亞天文協會 (振替大阪56765)
(代表者山本一清)

日本出版文化協會第2種會員(第220038番)

眞美印刷所 橋本岩太郎(電西陣3702)

日本出版配給株式會社